

令和7年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	対象となる主な学年	第2学年
取組事例名	「構成的グループエンカウンター」		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像	
児童の実態	取組を通して育てたい児童像
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、なかなか教室へ位置付けられない児童がいる。 ・休憩時間中、友達との関わりが少なく、一人で過ごすことが多い児童が数名いる。 	<p>重点的に育成したい資質・能力</p> <p>【人間関係形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や他者のよさに気付く児童。 ・互いに理解し合い、互いを尊重し合うことのできる児童。



◆ 取組の具体的内容	
取組を実施する意図及びねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・「自己発見」…新たな自分と出会うため。 ・「他者発見」…他者のよさ、すばらしさを見つけるため。 	
取組の流れ・創意工夫・児童の変容等	
<p>《理論》</p> <p>○スクールカウンセラーによる校内研修の実施（8月） 夏休み中、全教職員対象でスクールカウンセラーによる構成的グループエンカウンターについての理論研修を実施した。</p>	
<p>《実践》</p> <p>○スクールカウンセラー来校日に、担任と共に学級の時間で構成的グループエンカウンターの実践授業実践</p> <p>【第2学年の取組】</p> <p>指導時に大切にしたこと</p> <p>〈ルール確認〉 どの児童も安心・安全に活動できるようにするための土台づくり。 児童に提示したルール 「自分の思いを伝える」「相手の思いを受け止める」「先生の話をよく聴く」</p> <p>〈目的の共有〉 どういう目的で活動を行うのか、指導者と児童で共有。 児童に提示したねらい 「みんなと仲良くなろう」「みんなのことをもっと知ろう」</p> <p>〈デモンストレーション〉 各活動前に指導者によるデモンストレーションの実施。 →指導者が自己開示する場となり、指導者と児童の絆を深めるきっかけになった。それにより、児童も自己開示しやすくなり、児童同士の絆を深めていくことにもつながった。</p> <p>〈シェアリング〉 振り返りの実施。 →児童に「感じたこと」「気付いたこと」を発言させることにより、授業前との心の変化に気付かせることができた。</p>	
<p>具体的な活動事例</p> <p>〈聖徳太子になろう〉 複数人の児童が同時に異なる文字を言い、それがどんな言葉になるのか考える。 ねらい「傾聴する力を高める」「協調性を高める」 →活動を続けるうちに、回答する側の児童が発話者をよく見て聴く姿が見られるようになった。また、回答する側の児童が自然に話し合いを始め、協力して活動に取り組む姿も見られるようになった。【共感的人間関係の育成】</p> <p>〈サイコロトーク〉 出た目のお題について、グループ内で交流する。(例：1 最近楽しかったこと、2 もし魔法が使えたら何をしたい、3 今年チャレンジしたいこと 等) ねらい「自己開示する」「他者のことを知る」 →様々なお題で交流を続けていくうちに、「わたしも同じ」「確かに、それ分かる」等の反応が自然とみられるようになった。また、シェアリングでは「楽しかったことが〇〇さんと同じでうれしかった」という反応があった。【自己存在感の感受】</p>	

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）
<ul style="list-style-type: none"> ○教室へ位置付けられない児童が教室で過ごす時間が増え、授業に参加することができている。 ○学級内に他者を受け入れる雰囲気ができている。 →児童から「〇〇くんの思いを受け止めてあげようよ」という発言が聞かれるようになってきている。 ●来年度は、全学年で構成的グループエンカウンターの実践授業を実施できるように調整していく。 ●スクールカウンセラーから学んだ技術を担任が実践できるような支援をする必要がある。